

(文中の太字は引用者による。・・・は省略部分。)

ある時、ネズミたちが集まって、猫の攻撃から身を守る手だてを相談する。このイソップの物語では、猫に鈴を付ける案に「誰が付けに行くのか」という厳しい現実が立ちはだかる。

相談だけで物語は終わり、ネズミたちの暮らしも、おそらくは元に戻った。しかし、もし・・・・・・「共謀罪」がある世界にあったらどうか。ネズミたちは、猫への「営業妨害」の共謀で摘発されたかも知れない。

犯罪の実行を話し合っただけで罪となる「共謀罪」の新設を盛り込んだ組織的犯罪処罰法などの改正案・・・・・・。改正の本来の目的は、国際的なテロ組織やマフィアによる犯罪の未然の防止だ。

国連での条約採択を機に、批准に向けて国内法を整備しようと、政府は03年に改正案を国会に出した。しかし市民団体などが、一般の人や団体にまで適用されかねないと強く反発した。2度廃案になり、今度が3度目だ。

『**冗談のつもりだった**』は通じない。そんな題の冊子を京都弁護士会が作った。共謀罪が適用される恐れのある例を、漫画で示している。税理士事務所で、会社の社長が言う。「先生、法人税なんかならんかな。経費の水増しとか」「まあまあ社長、私の方で出来ること考えますよ。ハハハ」。こんな談笑でも罪に問われる可能性があると言指摘する。

・・・・・・社会の安全の確保が大事なことは、言うまでもない。しかし、人々の冗談や相談が摘発されかねない世の中では困る。